

《河川事業事務所別予算内訳》

阿武隈川水系の直轄河川関係事業費は全体で約 5 2 億円となっており、河川氾濫や土砂災害をを防ぐために河川改修や砂防施設整備を進めるとともに、適正なダム管理、河川管理を実施していきます。

なお、事業費について現在国会において予算関連法案が審議中であること等により、本表は暫定版であり、配分額については今後変更があり得ます。

(単位：百万円)

	福島河川国道	三春ダム	摺上川ダム	阿武隈川上流全体	H20/H19
直轄河川改修費	1,418	—	—	1,418	0.85
直轄砂防事業費	1,053	—	—	1,053	1.03
直轄河川維持修繕費	1,231	—	—	1,231	0.97
直轄総合水系環境整備事業費	42	—	—	42	1.20
直轄河川工作物関連応急対策事業費	146	—	—	146	0.98
直轄堰堤維持費	—	650	560	1,210	0.99
直轄河川等災害復旧事業費	60	—	—		—
合 計	3,950	650	560	5,160	0.95
H 2 0 / H 1 9	0.94	0.97	0.99	0.95	

注) 福島河川国道事務所の「直轄火山砂防事業費」に山形県分を一部含む
福島河川国道事務所の「直轄河川等災害復旧事業費」はH19発生(過年災)

東北整備局福島県内各事務所における主要事業のポイント

安全で安心できる地域づくり

(河川事業)

- 平成10年8月、平成14年7月洪水など度重なる洪水被害を受けている伊達市^{やながわ}梁川地区において土地利用一体型水防災事業による浸水家屋の宅地嵩上げや家屋補償により事業を推進します。

(福島河川国道事務所) 別紙 - 1

- 本宮地区において、平成19年度に検討した「まちづくりと一体となった河川整備」計画を基に、本宮左岸地区完成堤化に向け堤防整備に着手します。

(福島河川国道事務所)

- 上流に崩壊地及び地すべり地形を有している荒川・須川流域の流出土砂を抑制し、福島市街地を保全するため進めている砂防堰堤(塩の川第6、須川第2)の進捗を図ります。
また、松川流域で進めている遊砂地事業を推進します。

(福島河川国道事務所)

(適正なダム管理)

- 阿武隈川及び大滝根川沿川の洪水被害の軽減、渇水被害の軽減効果を適切に発揮するため、平成20年度は、ダム本体及び放流設備の維持管理、並びに貯水池の維持、水質の監視等を実施します。また、貯水池の水質保全対策施設の機能維持のため、前ダムに堆積した土砂の撤去等を行います。

(三春ダム管理所)

- 摺上川および阿武隈川沿川の洪水防御や渇水被害を防止するため、適切な高水管理(洪水調節)と低水管理(用水補給、発電)を実施します。また、ダムの機能が十分発揮できるよう管理設備(放流設備・取水設備等)の維持補修や流木処理・水質監視など貯水池管理を実施するほか、ダム設置後の周辺環境のモニタリング調査を行います。

(摺上川ダム管理所)

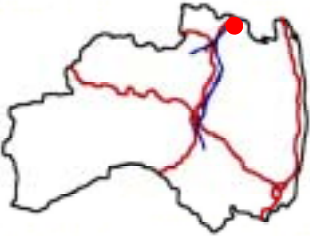
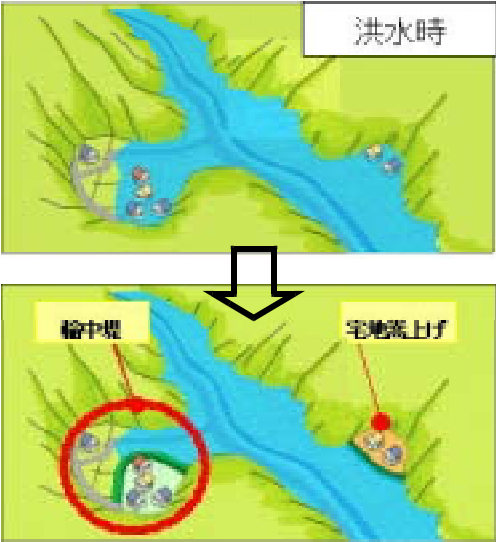
美しい東北の創造

(河川事業)

- 誰でも快適に親水空間を利用でき、野鳥観察や自然学習も気軽に行える河川空間を創るため、阿武隈川福島荒川地区総合水系環境整備事業(福島市)により、荒川においてネットワーク化を図る散策路、サイクリングロード等の整備を推進します。

(福島河川国道事務所)

安全で安心できる地域づくり あらゆる災害に強い安全な地域づくり

事業名	あぶくま やながわ 阿武隈川上流梁川地区土地利用一体型水防災事業(直轄) (福島県伊達市)	
事業着手:平成15年度	完成・供用の目標年度:平成22年度完成予定	
事業の必要性・事業の概要	福島県	
「事業の必要性」 福島県と宮城県の県境に位置する阿武隈川狭窄部では、昭和61年8月、平成10年8月、平成14年7月の洪水で浸水被害が生じさらに生活道路が冠水し一時孤立する状態にあることから、早急な対策が必要となっています。 「事業の概要」 当該地区は狭窄部という地形的特性から、従来の改修(連続堤防)ではなく、地域の特性に応じ、輪中堤・宅地嵩上げ・家屋補償による治水対策を実施し、早期に被害の軽減を図ります		
		
		
対策イメージ 		
		
		
平成20年度の事業費及び事業内容		
○阿武隈川右岸舟生地区における宅地嵩上げ、家屋補償の促進。		
事業効果		
○輪中堤整備、宅地嵩上げ、家屋補償を実施することにより、洪水時の安全な生活を確保します。		